

3 財務の概要

法人全体の平成 30 年度決算は、大学学生数の増加、および各学校の好調な入試状況により、教育活動に関する事業収入（学生生徒納付金・手数料・経常費等補助金）が増収となった。

支出は西キャンパス建設が予定通り進み、経費に関しては予算内での執行となった。事業活動収入合計は 137 億 5,800 万円、事業活動支出合計は 120 億 8,300 万円を計上した。

経常収支差額は 16 億 7,400 万円、基本金組入前当年度収支差額は 16 億 7,500 万円となった。

翌年度繰越収支差額は、91 億 7,600 万円の支出超過である。これは本学が施設・設備を充実させ、学生生徒等の満足度を高めることから発生しているものであるが、今年度 5,600 万円の増加となった。

主な収支については以下の通りである。

A. 教育活動収支

教育活動収入は、2 億 4,700 万円増の 135 億 1,600 万円となった。学生数の増加により、学生生徒納付金、手数料、経常費等補助金が増加した。教育活動支出は 4 億 4,000 万円減の 119 億 7,600 万円となった。

教育活動収支差額は 15 億 3,900 万円で、教育活動収入計に対する比率は 11.4 % である。

B. 教育活動外収支

教育活動外収支は受取利息・配当金、収益事業収入、および借入金等利息の金額であり、教育活動外収支差額は 1 億 3,400 万円となった。その結果、経常収支差額は昨年比 6 億 7,400 万円増の 16 億 7,400 万円となった。

C. 特別収支

特別収支の収入として、有価証券売却損益、施設設備の寄付金、および補助金収入で 9,700 万円を計上した。特別収支の支出として有価証券売却損益、および資産処分差額で 9,500 万円を計上した。

D. 基本金組入前当年度収支差額

上記の教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の結果、基本金組入前当年度収支差額は 16 億 7,500 万円となった。事業活動収入計に対する比率は 12.2% である。

E. 繰越収支差額

基本金 17 億 3,000 万円組入後の当年度収支差額は△5,500 万円となった。その結果、翌年度繰越収支差額は、△91 億 7,600 万円となった。事業活動収入計に対する比率は△66.7% である。

II

資金収支計算書

事業活動収支計算書の説明以外での特記事項は次の通りである。

A. 収入

借入金等収入は入学支度金貸付資金として、公益財団法人東京都私学財団から借り入れた 40 万円である。資産売却収入は、短・中期運用の有価証券売却、および償還に伴う収入である。前受金収入は授業料等の前受金の 31 億 2,300 万円である。

B. 支出

施設関係の支出は、西キャンパス建設工事、校舎改修工事、インフラを中心とした学園環境整備事業、省エネ機器設置工事等である。設備関係の支出は、教学用システムの更新のほか情報システムの環境整備を重点的に推進したことによる支出である。資産運用支出は主に短・中期運用の有価証券の購入支出である。その他支出として、無利子貸与である人見記念奨学金貸付金、及び、昭和学園奨学金貸付金支払支出を行った。

III

貸借対照表

1. 資産

西キャンパス整備工事が予定どおり進み、建設仮勘定の計上を行った。

2. 負債

借入金は返済により 2 億 400 万円減少し、期末残高は 5 億 250 万円となった。退職給与引当金は 5,900 万円の増加となった。なお、退職給与引当金は従来から期末要支給額の 100%相当額の引当を行っている。

3. 純資産の部

基本金は西キャンパス整備等に伴う第 1 号基本金が 17 億 3,100 万円の増加となった。翌年度繰越収支差額は、△91 億 7,600 万円となった。

IV

収益事業会計

A. 収益事業会計

平成 29 年度より寄附行為に「不動産賃貸業・管理業」を定義し、収益事業を開始している。学校法人会計から分離独立して事業を営んでいる収益事業（会計）の 2 期目の決算は、営業収益として、建物賃貸料収入約 2,210 万円を計上し、学校会計へ約 832 万円を繰入れた。